慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話（3353）1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　１回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

慶應義塾大学医学部三四会 平成26年度定例評議員会報告

三四会社会功労賞、三四会奨励賞授与式も

梅雨の晴れ間、夏日の好天となった6月14日（土）午後3時より2時間、信濃町キャンパス2号館11階大会議室で開催された。

議長（吉野肇一、44回）より、出席者159名（うち86名は書面出席者、委任状宛先は全員、会長）は評議員現在数238名の過半数であり、会則第20条第3項により、本評議員会の定足数を充たしていることを確認後、開会された。

昨年同様、準会員である学生の代表として、今泉研人君（四谷自治会長、4年生）の陪席が認められた。

審議に入る前に平成25年度物故会員96名に対し、黙祷が捧げられた。

今回は、役員改選期のため、まず平成25年度までの執行部により同年度の案件を審議し、役員改選後、26年度案件についての審議が新体制下で行われた。

平成25年度案件

最初に比企能樹会長（37回）より、出席者に対し感謝の言葉と、平成17年からの長期間にわたる会長への支持に対する謝辞が述べられ、爾後、慶應連合三田会会長として、医学部のみならず、他学部のためにも尽くしたい、また、医学部創立100年事業に向け、新病院建設募金活動に引き続き努力したい旨の抱負が語られた。

まず1号議案として、平成25年度事業報告が、古梶清和理事（63回）によって行われた。三四会会員数は9,009名（昨年比マイナス11名）であり、10年前の研修医制度変更に伴い、他大学出身者の数が激減しているので、対策を検討中とのことである。例年になかった事業としては、三四会事務所の移転、および新病院棟建設資金募金活動活性化を目的とした学年幹事会（第1回）の開催であった。

第1号議案について、挙手多数により承認された。

第2号議案として、平成25年度会計決算が末岡浩副会長（59回）より上程され、収入については若干会費の納入が減少したこと、例年にない支出として三四会事務所移転費用約1,640万円が計上され、全体としては約60万円の赤字であったことが説明された。

引き続き、第3号議案である財産目録、会計事務処理並びに財産管理監査報告が、菅沼安嬉子監事（47回）より行われ、会計及び会計以外の業務が適正に行われたとされた。

第2号および第3号議案は、挙手多数により承認された。

次に、第4号議案の平成26年度評議員会議長および役員の選任に関し、比企会長よりその経緯が報告され、それに基づいた評議員会議長及び役員候補者に関する提案がなされた。

挙手多数により承認された。結果は、表のとおりである。

平成26年度案件

最初に第5号議案として、副議長の指名が議長（吉野肇一、44回、重任）より行われ、長倉和彦君（55回）が挙手多数により承認された。

続いて、武田純三新会長（52回）が挨拶に立ち、三四会員を増やすこと、医学部創立100年祭に向けての募金活動等を含めた諸作業を、役員一同で業務分担して遂行していく方針であるとの抱負が語られた。

第6号議案として、副会長（表）および顧問の指名が武田会長によって行われ、挙手多数により承認された。

顧問は以下の12名の諸君である。

内匠昭（33回）、渡辺眞幸（34回）、比企能樹（37回）、山本修三（38回）、櫻井秀也（41回）、山田淑儿（42回）、村井勝（46回）、菅沼安嬉子（47回）、池田美智子（47回）、御子柴克彦（48回）、中谷比呂樹（56回）、末松誠（62回）

第7号議案の平成26年度事業計画は、リー啓子副会長（60回、重任）により提案された。例年と異なる点は、次の2点である。

本会からの新病院棟建設募金

比企能樹顧問・前会長より次のような説明が行われた。まずこれまでの経緯として、三四会の目標額は30億円、三四会員には1口50万で2口以上、塾医学部教授会構成員には4口以上でお願いしてきている。さらにこれからは、支部、教室単位での協力をお願いしたい。これまでの実績としては、塾創立150年募金時、主に三四会関係者による新病院棟建設に特化した募金総額が13億3千万円（塾/医学部、前記目標額30億円には含まれず）、今回の医学部創立100年募金申込額は、現時点で、4億8千万円（三四会関連個人397名＋5法人）である。このような現況から、募金の呼び水的な意味を含めて、また、三四会新事務所も立派に出来上がったことから、三四会として今年度に、三四会館建設のために10余年にわたり積み上げてきた特別会計から6千万円の寄付を行いたい。

三四会讃歌（仮称）作成

本案件は、理事会で議長提案であったことより、議長より以下のような説明が行われた。本事業の目的は、三四会および医学部創立100年を祝して、会員の愛唱歌を作り、会員相互の関係を密にするとともに、会員の誇りを声高らかに歌い上げることで、会員の増加にもつながる可能性がある。作曲等は、小森昭宏君（36回、音楽三田会会長、日本作曲家協会会長）に依頼予定。完成・披露は2017年の三四会および医学部創立100年祝賀会で、総予算は100万円である。

続いて、第8号議案として、既述事業計画に基づく平成26年度予算が渡辺真純副会長（64回）により上程された。収入は前年と同水準を予定、名簿発行年のため、名簿作成および発送予算の計1千700万円の計上があり、200万円弱の赤字会計となっている。

質疑応答では、募金について、会員に対し、より頻回かつ丁寧な文書送付による依頼が必要、募金委員会を開いて会員に刺激を与える、可能ならば医学部新聞送付時に趣意書を折り込む、若手理事による高齢者クラス会での募金依頼活動、教室同窓会からの寄付等、多くの意見が出された。医学部長からは、教授会の募金状況についての説明があり、また、募金を依頼できそうな企業等の紹介依頼や、三四会支部会へ募金申込書を持参し、その場で参加者各人の署名を促したい旨の発言があった。

第7号、第8号議案は挙手多数により承認された。

続いて、医学部長より医学部・病院報告が行われた。内容は、過日の安倍首相の大学病院訪問と政府が推進している混合診療、大学病院が力を入れているクラスター診療の実現と基礎・臨床一体型医療における国際医療拠点の創設、医学部と病院の収益改善等であった。

さらに、来季よりの医学部合格時保証大型奨学金制度について説明があった。具体的には、成績優秀者10名に対する年間200万円で4年間の画期的な授業料減免制度で、これにより、恩恵を受ける学生は一部にとどまるものの、私大医学部では圧倒的に低額の学費体制が導入されることになる。

次に、三四会社会功労賞・奨励賞授与式が、水野前副会長による社会功労賞選考経過説明後、比企前会長により執り行われた。受賞者の渡邊昌君（44回、病理）より謝意が述べられ、受賞対象となった食事の重要性についてコメントがあった。

奨励賞も同様に、以下の8君へ授与された（応募受付順）。

基礎：矢野真人（78相当、生理）、菅田浩司（76相当、生理）

臨床：小林佑介（82相当、産婦人科）、松崎潤太郎（84回、内科）、山澤一樹（78回、小児科）、小坂威雄（79相当、泌尿器科）、川崎洋（83回、皮膚科）、西村空也（84回、整形外科）

ここで、武田会長より、新役員の紹介が行われた。

また、比企前会長の本会に対する長年のご尽力への感謝として、武田会長より花束が贈呈された。

議長からは、今回から導入した評議員会開催前の資料電子メール配信に関し、多くの評議員から賛意を頂いたことと、それを通しての執行部提案に関して異論は寄せられなかったことが報告された。またこの方式は継続したいので、執行部に対しできるだけ早い資料作成の要望が寄せられた。

最後に、川城丈夫前副議長（45回）より、熱心、かつ、真摯な討議に対する謝意が延べられ、来年は本会が6月13日（土）に開催予定であることが告げられたのち、閉会となった。

この後、同階中会議室で情報交換会が、リー副会長司会、参加最年長者の桜井祐二評議員（31回）の乾杯の音頭で始められ、和やかな雰囲気の中で1・5時間があっという間に過ぎ、ラストは応援指導部OBの、山上淳理事（77回）・鈴木悠史評議員（93回）両名の見事な指揮の下、参加者全員で「若き血」を歌い、「フレーフレー慶應・三四会」のエールでにぎやかに散会となった。

吉野肇一、川城丈夫・長倉和彦（議長、平成25・26年度副議長）

比企前会長から武田新会長へ

三四会社会功労賞、三四会奨励賞受賞者たち

平成26年度三四会社会功労賞

渡邊　昌君（病理学教室）
「食事と健康に関する研究と普及活動」

平成26年度三四会奨励賞

〈臨床分野〉

小林　佑介君（産婦人科学教室）
「絨毛癌モデル細胞JC3-1（induced choriocarcinoma cell-1）の樹立、同細胞を用いた絨毛癌発癌機構の解明と絨毛癌幹細胞同定への取組み」

松崎潤太郎君（内科学教室）
「バレット食道および食道腺がんの発症機序の解明」

山澤　一樹君（小児科学教室）
「ゲノムインプリンティングの異常に起因する小児先天異常症候群の分子基盤の解明」

小坂　威雄君（泌尿器科学教室）
「前立腺癌及び尿路上皮癌におけるがん微小環境の解析」

川崎　洋君（皮膚科学教室）
「フィラグリン欠損マウスを作成し、各層バリア機能維持、アトピー性皮膚炎発症機序におけるフィラグリンの関与を*in vivo*の系で明らかにした」

〈基礎分野〉

西村　空也君（整形外科学教室）
「脊髄損傷後の経時的な微小環境変化は神経幹細胞移植の治療効果に影響を与える」

矢野　真人君（生理学教室）
「神経発生期におけるRNA総合蛋白質によるRNAダイナミクスの解析」

菅田　浩司君（生理学教室）
「細胞死と細胞増殖の相互依存による疾患制御機構の解析」

平成26年度三四会役員

役員等	氏　名	回生
会長	武田　純三	52
理事（副会長）	リー　啓子	60
理事（副会長）	古梶　清和	63
理事（副会長）	渡辺　真純	64
理事	篠崎　英夫	48
理事	堀内　行雄	52
理事	久保内光一	55
理事	高木　誠	58
理事	竹内　勤	59
理事	末岡　浩	59
理事	坪田　一男	59
理事	高橋　孝雄	61
理事	三村　將	63
理事	中川　種昭	64相当
理事	洪　実	65
理事	佐藤美奈子	65
理事	福島　裕之	67
理事	近藤　太郎	68
理事	深川　和己	68
理事	安井　正人	68
理事	宮川　義隆	70
理事	井ノ口美香子	75
理事	山上　淳	77
理事	朝倉　啓介	81
理事	遠藤　彩佳	81相当
監事	熊井浩一郎	46
監事	水野　嘉夫	47
監事	松本　純夫	52
評議員会議長	吉野　肇一	44
評議員会副議長	長倉　和彦	55

第12代新三四会長就任――三四会会長としての抱負

武田　純三（麻52回）

この度、比企会長の後を引継いで三四会会長を拝命しました。昭和48年（1973年）卒業の52回生で、平成17年10月から医学部長補佐を4年間、平成21年8月から慶應義塾大学病院長として4年間勤め、現在独立行政法人国立病院機構東京医療センター院長を勤めております。副会長としては、リー啓子先生（60回生）、古梶清和先生（63回生）、渡邊眞純先生（64回生）にお願いしました。

どの医系大学にも同窓会があり、活動も活発ですが、慶應医学部同窓会である三四会は、他の大学から非常に結束の強い組織であると、うらやましがられております。三四会名簿があり互いの連絡がとりやすくなっているだけでなく、その根底には、福澤精神と北里柴三郎博士の教えの元に、一致団結する志が根付いていることにあると思います。

現在の三四会活動の中で、2017年の医学部100周年に向けての事業は、医学部・病院と協力しての一大事業であることは言うまでもありません。中でも新病院棟建設は最も重要な事業で、既に6号棟の解体が終わり、新病院棟である1号館の地鎮祭が5月12日に行われ、工事が始まっております。その中で資金調達である募金活動は、医学部との連携の下に、三四会会員からの寄付集めに最大限の努力を払う必要があります。今回執行部では、各理事に担当事業部門を決め、実質的責任者として活動をお願いする予定であります。募金活動においても、これまでの募金委員会組織を解散し、新たに募金担当理事を設置し、心機一転した新しい仕組みで募金活動を鋭利行う準備をしております。

会員への活動として三四会新聞がありますが、その他は東京近郊の会員や、大学や研究者を対象としたものが多いため、地方在住や、市中病院の勤務医、開業医の先生方への活動にも力を注いでいきたいと考えます。また、清家塾長、比企理事、三四会会長の援助を頂いて、三四会と三田会の協力体制を、中央だけでなく、地方でも作り上げたいと考え、検討を始めております。

現在の医学部における最大の問題は、学費が他大学より高くなっている中で、優秀な学生を確保することにあります。今回奨学金による実質的値下げの見通しがついた事は、大変喜ばしい事であります。これら医学部学生への愛校心の高揚、他大学出身者の三四会への加入など、大学医学部との連携による一連の流れとして、三四会の組織をさらに強固な組織にしていきたいと考えておりますので、先生方のご協力をお願い申し上げます。

学校法人東京歯科大学理事長に就任して

東京歯科大学水道橋病院　水野　嘉夫（内47回）

平成26年6月1日（日）開催の学校法人東京歯科大学理事会にて、理事長に選任されました。

本学の創立者高山紀斎先生、建学者血脇守之助先生はともに慶應義塾で福澤諭吉先生の教育を受けた先生方です。また、市川病院は当時の医学部長の阿部勝馬先生他、慶應医学部教授陣の多大なご協力のもと昭和21年12月に開院しました。それ以前も基礎各科の教授の先生方の派遣をいただいておりました。本学は創立124年になりますが、先輩諸氏からはよく「私は加藤元一先生の不減衰学説の校旗の上がる授業を受けた」と自慢されるぐらい緊密な関係がありました。

平成24年11月に慶應義塾大学医学部（末松誠医学部長）と東京歯科大学（井出吉信学長）は、包括的な連携のもとで教育・研究・臨床において交流を深め、連携し、歯学・医学の進歩と発展に向けて学術活動を推進していくことに合意し、協力協定を結ぶに至りました。

私は、昭和43年に医学部を卒業し消化器内科におりましたが、昭和56年末、土屋雅春教授に市川病院赴任を命ぜられ、以後18年間勤務いたしました。赴任する時に土屋教授に「歯医一体」「東京歯科大学に骨を埋めろ（＝今流で言えばBloom where you are planted）でしょうか」と言われました。平成4年に新市川総合病院（470床）が完成し病院長を命じられ、当時の植村常任理事、細田医学部長、神崎病院長の強力なるお力添えをいただきました。

平成11年4月より日本鋼管病院院長（桐生恭好名誉院長、35回生）に異動し、平成23年6月迄約12年間、医療法人化を含め日本鋼管病院にすべてをささげました。この間、平成18年6月に故井上裕東京歯科大学理事長の招聘を受け、今日まで理事を務めさせていただきました。

敬愛する故岡島重孝先生（元川崎市立井田病院長、41回生）に、45年前に「水野さん、人生は『あいうえおん』ですよ」と言われたことを今噛みしめております。「あい」は愛、「うえ」は運、「えん」は縁、「おん」は恩です。何事にも愛情を持って接していれば、縁があり運があり、そしてその恩を大切にしなさいと言うことでしょうか。

この10数年の間の歯学・医学の接近を見逃すことはできません。いかに口腔内の出来事が全身疾患に影響を及ぼしているか？　また逆もあり、生命の危機・予後にまで及んでおります。超高齢化社会の到来を迎え、今こそ歯科・医科の癒合が求められており、この分野にて本学が慶應義塾大学医学部と協力して先導的役割を成していくべきと思っています。

今までお世話になりました歴代の常任理事、医学部長、病院長、教授の先生方に感謝を申し上げると同時に、消化器内科歴代の三辺、土屋、石井、日比、金井各教授、教室員の皆様に感謝いたします。この数年間関係して参りました三四会比企能樹会長始め執行部の先生方に感謝を申し上げます。本学の発展のためには、同窓各位の協力無くして成し得ません。これからなお一層お世話になることと思いますので、ご指導ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

慶應義塾大学病院　各種お問い合わせ先

・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）

三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

医療機関用
TEL 03-3353-1257　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「予約問合せ一覧」→『「医療機関からの初診予約」―「Webによる予約」―【医療機関からの予約専用フォーム】』へ
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

鑑賞知来

慶應義塾の伝統行事に塾員招待会がある。卒後25年目の塾員が卒業式に、卒後50年目の塾員が入学式に招かれる。招待される塾員は三田会として記念事業を行うことも伝統行事となっている。その一つが卒業式前日に行われる大同窓会であり、もう一つが塾生に対する奨学金の寄付である。

2015年3月23日の卒業式には1990年に卒業した1990年三田会が招かれる。私は1992年塾医学部卒業であるが、ひょんなことから1990年三田会の記念事業に参加することになった。1990年三田会には、いろいろな理由から1990年卒業ではないが自分の代としてのアイデンティティーを感じている人も集まっている。私もそこに加わっている。1990年三田会の塾員は大学入学が同じ1986年の仲間であるからだ。そして記念事業に参加してもらうよう医学部同期71回生に声をかけている。

さる5月17日三田において卒業25年記念事業キックオフ同窓会が開かれ71回生も数名出席した。西校舎で久しぶりに塾歌を歌い感無量であった。総会後の懇親会では卒業以来久しく会っていない友人と再会した。應援指導部OB、OGのパフォーマンスは早慶戦を思い出し皆で楽しく盛り上がった。

総会で清家塾長はこう述べられた。「在学中に良い友人と出会えることは良い学校の条件である。」医師は医学的知識のみに偏らず教養を備えるために、様々な人々と交わり広く常識を学ぶ必要がある。将来様々な分野で社会の先導者たらんとする友人と在学中に出会えることは医学部学生の将来にとって人生の宝となる。

慶應義塾がこれからも良い学校であるために、そして義塾社中の一員である後輩たち塾生が学業を全うし良き友人と出会えるよう支援するために社中が協力し奨学金の寄付を成功させたい。来年3月22日の大同窓会では、在学中に出会えた良き友人との旧交を温めることを楽しみにしている。

（さぎぬま脳神経クリニック院長　島崎賢仁　71回）